

## 1.2年で集会を行いました

3月14日(火)に1年生と2年生が集まったの久しぶりの集会でした。3年生が卒業しているので体育館が広く感じました。現在の1年生と2年生が来年度は学校の中心となって新1年生を引っ張って活躍するわけですが、まず、私から卒業生からのメッセージと2年生代表の答辞の話をしました。



### 卒業生からのメッセージ

- ①あつという間の三年間。
- ②3年だけでなく全校生徒で創りあげた体育大会や学習成果発表会は忘れられない思い出。
- ③団結する事、計画的に進める事、全力で取り組み楽しむ事、の大切さを学んだ。
- ④在校生の皆さんが私たちについてきてくれたから、私たちは成長する事ができた。
- ⑤これからの南阿蘇中を創っていくのは皆さんです。南阿蘇中ブランドや開校以来の先輩方の思いを受け継ぎ、自分たちで創り、後輩たちへと繋げていってほしい。
- ⑥悔いが残らないように、一瞬一瞬を大切に、仲間を大切に過ごしてほしい。

### 2年生代表の宣言(先輩から学んだ事)

- ①笑顔で気持ちよい挨拶の大切さ。
- ②後輩に丁寧に教える事の大切さ。
- ③率先し、一致団結する事の大切さ。
- ④全力を出して最後までやり遂げ、諦めずに、仲間と共にやれば実力以上の力を発揮できる事。
- ⑤今までコロナ禍で出来なかった学習成果発表会等の行事を自分たちからもういちど始めようとする姿勢。

### 生徒会担当の宮川先生からのメッセージ

一人ひとりが生徒会のメンバーとして1ヶ月後の自分をイメージして後輩を引っ張り、学校をまとめていってほしい。そして、新3年生は卒業式の時に担任が涙するような卒業式にしてほしい。そんな充実した学校生活を送ってほしいと思います。

### 生徒指導担当の松永先生からのメッセージ

決意だけでは、未来は変わりません。大事なことは実行すること。行動すること。まずは、環境を整えることから始めましょう。きれいな環境が当たり前になると一人ひとりが目標に向かって伸びるし、集団が伸びていきます。さあ、今から始めましょう。

これらの話から「モーション(行動)はエモーション(感情・感動)を生む」という言葉を思い出しました。

## 新専門委員長就任式

3月14日(火)の昼休みに生徒会室で行いました。新生徒会長から委嘱状が渡され、新委員長たちの意気込みが一言ずつ伝えられました。あと、1ヶ月弱で2年生は新3年生としての義務教育最後の1年が始まります。3年生が卒業した今、新委員長たちには、新生徒会執行部と共に、南阿蘇中学校を盛り上げていってほしいものです。

(代議員)(生活・環境委員)(図書・学習委員)(体育委員)(健康委員)(広報・放送委員)(人権・ボランティア委員)があります。

## 自信を持ちたい

今回は人権作文集「しらかわ」に載っている。2年生のメッセージの一部を要約、紹介します。

一年生の初め頃に学級目標を決めた時、私は自分の意見を持っていただけ、自信が持てず、発表する事ができませんでした。同級生の中には、授業の発表をする場面で毎回手を挙げて発表する人がいました。失敗するのが怖くないのかと思ったけれど、めげずに何回でも挑戦しているように見えました。そんな姿を見るたびに、私も手を挙げられるようになりたいとずっと感じていました。それでも、間違っていた時に周りがどう思うか不安で、発表する事ができませんでした。

私は、自信とは自分の正しさを確信できて、自分を貫き通せる事だと思います。そして、自信を持つためには成功する体験を積み重ねていく事が必要です。そこで、私は班長に立候補しようと考えました。

多くの人の前だと、前に出て自分の意見を発表する事ができなかったけれど、班の中だとお互いの顔が見えて、安心して自分の意見を言う事ができました。また、授業の話し合いで、みんなで解き方を考える時に、自分に意見を求められて話す事ができた際には、自分の事を頼ってもらえていると感じました。その事で自分の考えに自信を持つ事ができました。自分の考えに自信がなくて、言えなくて後悔する事を繰り返したくないと思っていました。

二年生では、初めの頃、班長に立候補できませんでした。一年生の頃と違って人数が増えて、自分の事を周りがどう見ているのか不安に感じたからでした。人数が少ない中だと、自分の言いたい事が言えるのに、人数が多いとできない自分がいる事に気付きました。それでも、自分を変えたいと思って、修学旅行の班決めの時に班長に立候補しました。

班決めの時に一番不安だったのが、自分の出す指示をみんなが聞いてくれるかどうかでした。もしかすると、誰も聞いてくれないのではないかと心配しました。

修学旅行では、知覧特攻平和会館を訪れた時に、初めて班での見学をしました。班のメンバーがバラバラになってしまうのではないかと不安でしたが、同じ班の男の子が、「これ何を書いてあるか分かるかな。」「次は視聴覚室を見に行こう。」と言ってくれました。自分だけで班を動かさなければならないと考えていましたが、その不安が自然となくなっていました。班のメンバーのうち、男子は普段話さない人たちだったから、会話しながら一緒に行動できた事がうれしくて、心配していた班活動が楽しみに変わりました。

また、知覧の武家屋敷では、見学時間の終わりがけに、担任の先生が腕時計を指しながら、「時間だから急いで。走って、走って。」と言われて、暑い中、みんなで急いで集合場所に戻りました。私たち第八班は、最後までバラバラになる事はなく、一緒に行動する事ができました。班長の仕事は不安だったけれど、修学旅行を終えて、班のメンバーが話を聞いてくれた事で、班長の仕事に自信を持つ事ができました。

班長を続けてきて、小さな事で良いから、成功する事をクラスみんなにも体験して欲しいと考えました。私は、自分に自信を持ちたいと班長を続けてきました。班長を経験して気付いた事は、最後まで話を聞いて、受け入れてほしいという事です。今、発表する事をためらっている人も、話の途中で否定せず、最後まで聞いてくれる人がいれば自信を持てると思います。私自身がそうであったように、自信を持つために挑戦したいと思う人はいるはずです。その気持ちを失わないためには、失敗してもからかったりせずに、受け入れる事が必要だと思います。だからこそ、発表した人の考えを否定せずに、受け入れてほしいです。二年生の終わりには、自分自身やクラスの人たちを信じて、積極的に発表できるようなクラスを目指したいです。